

学会記事

第25回徳島医学会賞及び第4回若手奨励賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなり、卒後臨床研修医を対象とした若手奨励賞は第238回徳島医学会平成20年度冬期学術集会（平成20年2月15日、長井記念ホール）から設けられることとなりました。徳島医学会賞は年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名～2名に贈られ、若手奨励賞は応募演題の中から最も優れた研究に対して2名に贈られます。

第25回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定し、第4回若手奨励賞は次の2名の方々に決定いたしました。受賞者の方々には第242回徳島医学会学術集会（冬期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は157～178ページに掲載しております。

徳島医学会賞 （大学関係者）



氏名：黒川 憲
生年月日：昭和61年8月27日
出身大学：徳島大学医学部医学科 MD-PhD コース
2年次在籍中
所属：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部ストレス制御医学分野

研究内容：選択的スプライシングを介した細胞機能調節機構の解明

受賞にあたり：

この度は第25回徳島医学会賞に選考いただき、誠にありがとうございます。選考していただきました先生方をはじめ関係各位の皆様には深く感謝申し上げます。

ヒトゲノム配列は完全に解読され、ポストゲノム研究が進むに従って、さらに複雑な遺伝子の機能が明らかにされつつあります。なかでも、RNAの多彩な機能が注目されており、転写、スプライシング、キャッピング、ポリ(A)付加、核外輸送、翻訳などの多段階で遺伝子発現を時空間的に制御する転写後調節機構の重要性が認識されています。特に選択的スプライシングは、mRNA

前駆体のスプライシングはもちろんのこと、エピゲノム、転写調節、伸長反応、核外輸送、および翻訳調節の全ての過程に関わる重要な反応です。しかし方法論の確立が困難なこともあり、選択的スプライシングを介した細胞機能の調節メカニズムについては未だ解明が進んでいません。そこで私は、悪性腫瘍での過剰発現が報告されている選択的スプライシング因子SRp20に着目し、腫瘍の発生および悪性化との関連を解析しています。

本研究を進めるにあたり、多大なご指導、ご鞭撻をいただきました徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部ストレス制御医学分野六反一仁教授とスタッフの皆様には厚く御礼申し上げます。

（医師会関係者）



氏名：本田 壮一
生年月日：昭和33年7月9日
出身大学：徳島大学医学部医学科
所属：美波町国民健康保険由岐病院内科

研究内容：脳卒中の医療連携 ー 県南部医療の改善をめざしてー

受賞にあたり：

この度は、第25回徳島医学会賞に選考していただき、ありがとうございます。選考委員の諸先生をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。

私は、当院に赴任し6年目となりますが、平成16年度の臨床研修医制度がきっかけになった、地域の医師不足はすさまじいものがあります。もともと私は、当地（美波町田井）の生まれです。医師をめざした原点の地で、診療する機会に恵まれました。着任の際、「ただ診療のみを行うだけでなく、学術的な活動も行おう」と考えました。そこで、この徳島医学会に、以下のように連続発表しています。

- ①「地域での糖尿病予防の経験」（第231回徳島医学会学術集会、平成17年度夏期）
 - ②「地域医療でモチベーションを保つには？」（第235回同集会、平成19年度夏期）
 - ③「超高齢者のターミナルケアー100歳以上で入院した7症例の検討ー」（第237回同集会、平成20年度夏期）
 - ④「メタボリックシンドローム・糖尿病腎症を合併する高血圧患者に対するテルミサルタンの臨床的有用性」（第239回同集会、平成21年度夏期）
 - ⑤「医学生実習を受け入れてー海部郡の小病院・診療所の経験からー」（第240回同集会、平成21年度冬期）。
- 今回の発表（6回目）は、地域医療で負担となってい

る脳卒中の救急医療、マンパワー・設備の不足に直面している、その慢性期・回復期の医療を、顔の見える医療連携で、乗り越え、改善しようというものです。当医療圏（南部Ⅱ保健・医療圏）においても、徳島大学・徳島県・徳島県医師会のご支援で、徐々に改善の兆しがあり、期待しています。

私は、国立がんセンター研究所（関谷剛男部長、当時）や徳島大学医学部栄養学科（板倉光夫教授、他）で、基礎研究の経験があります。その分野の研究の進展（同時に受賞した黒川さん・六反一仁教授のグループなど）を楽しみにしていますが、今回の受賞を期に、さらに地域の医療再生に努めたいと存じます。

今回の共同発表者（白川光雄、小原聡彦、橋本崇代、竹林貢、里見淳一郎、永廣信治の諸先生）に加え、前述の5演題の共同研究者：新谷保実、吉本勝彦、中川洋一、木村建彦、鶴尾美穂、坂本幸裕、小原卓爾、馬原文彦の諸先生、徳島総合診療研究会の皆様（所属省略、順不同）に御礼申し上げます。

最後になりましたが、大学卒業後、内科学や「学びのあり方」のご指導をいただいている齋藤史郎、松本俊夫の両先生や、徳島県医師会の川島周会長やスタッフの皆様へ深謝し、今後ともご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

（参考）本田壮一：第241回徳島医学会学術集会に参加して。徳島県医師会報No472：30，平成22年9月号

若手奨励賞



氏名：門田宗之^{かど たむねゆき}
生年月日：昭和60年6月5日
出身大学：徳島大学医学部医学科
所属：徳島大学病院卒後臨床研修センター

研究内容：繰り返す心不全と維持透析導入から離脱しえた腎動脈狭窄症の一例

受賞にあたり：

この度は徳島医学会第4回若手奨励賞に選考頂き誠に有難うございます。選考して頂きました先生方、並びに関係者各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

私は循環器内科での研修中に、心不全を繰り返し、経皮的腎動脈形成術（percutaneous transluminal renal angioplasty; PTR）によって劇的に改善を認めた腎動脈狭窄症を経験しました。今回の発表内容のような動脈硬化性疾患は、今後わが国の高齢化の進行に伴い更なる増加が懸念されます。故にその積極的なスクリーニング、観血的治療に踏み切ることの必要性を強く認識させられ

ました。研修期間のみならず、今回の発表を通して非常に多くの御指導を賜りました循環器内科の諸先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、平日頃より御支援くださる卒後臨床研修センターの佐田先生、西先生、山本先生、宮谷先生、スタッフの皆様方に心より御礼申し上げます。



氏名：田村 潮^{たむら しほ}
生年月日：昭和57年7月19日
出身大学：徳島大学医学部医学科
所属：徳島大学病院卒後臨床研修センター

研究内容：癌化学療法における消化管毒性と血清 Diamine Oxidase (DAO) 活性に関する検討

受賞にあたり：

この度は、徳島医学会第4回若手奨励賞に選考いただき誠にありがとうございます。選考委員の諸先生方をはじめ関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

現在、全がん死亡者数は増加の一途を辿っており、がん治療における抗癌剤治療の発展が今後の課題となっています。抗癌剤治療における有害事象として嘔気・食欲不振等の消化器症状は抗癌剤治療中の患者のQOLを大きく損ね、治療に対するモチベーションも低下させる大きな要因となっており、これらの有害事象への対策としてさまざまな薬剤が開発されています。今後、これら薬剤の適切な投与時期に対する研究の必要性が高くなっていくと考えられます。

私は消化器内科の研修期間中に胃癌に対する抗癌剤治療中の患者さんを担当させて頂きましたが、やはり嘔気に対する苦しみを取り除いてほしいという要望が多く聞かれました。

まもなく医師として1年が過ぎようとしておりますが、今後も患者さんのこのような要望に耳を傾け、可能な限りQOLを向上させることができるような医師を目指し日々精進していきたいと思っております。

消化器内科での研修期間終了後にもかかわらず、今回の発表のために多大なるご指導、ご助言を頂きました徳島大学大学院消化器内科学高山教授、岡久先生、北村先生、スタッフの皆様へ心から御礼申し上げます。また、日頃よりご指導・ご支援くださる卒後臨床研修センターの佐田先生、西先生、山本先生、宮谷先生、スタッフの皆様にも心から御礼申し上げます。